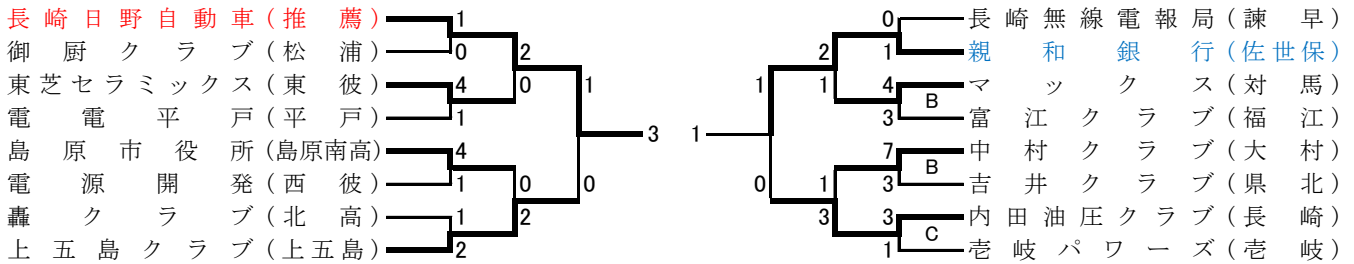


2年連続で親和銀行との決勝戦を制した長崎日野自動車

第30回長崎県軟式野球選手権大会

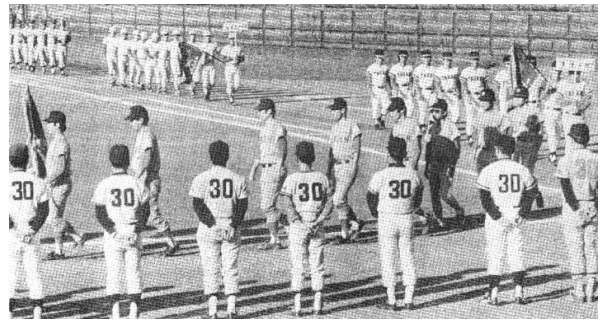
会期： 昭和55年11月1日(土)～3日(月)

会場： A・大橋球場 B・長崎工高G C・西浦上中G



長崎県軟式野球連盟創立35周年記念の第30回大会は11月1日の開会式で開幕。前年度優勝の長崎日野自動車を先頭に16チームの選手団が入場行進。投手板を中心に整列を終えた後に、前年優勝旗や、準優勝の親和銀行から楯の返還があり、篠原修三・長崎新聞社常務が主催者を代表して「壱岐や対馬、上五島からの出場、新しい顔ぶれ3チームなど熱気あふれる大会となることを期待する」とあいさつ。長崎日野の中村郁郎主将が選手宣誓。第一日目は3会場で8試合を行った。

(昭和55年11月2日付けの長崎新聞より抜粋)



【一回戦】=大橋：第1試合=

振球犠盗失残併

御厨クラブ	000 000 0	0	1	3	1	0	2	4	0
長崎日野自動車	010 000 X	1	2	5	0	2	1	5	0

【二】中村郁

【御厨】打安点

②北川	1	0	0
⑥古賀	3	1	0
⑧中野	1	0	0
③松島	3	1	0
①春藤	3	1	0
⑦末武	3	0	0
④二瀬	3	0	0
⑤浜本	2	0	0
⑨萩尾	2	0	0
		21	3 0

【日野】打安点

⑥武次	2	0	0
⑨櫛本	1	0	2
H9中村義	1	0	0
②木村	3	1	0
③中村郁	3	1	0
⑦川山	1	0	0
H7西良	0	0	0
①古里	2	0	0
⑤岡村	2	1	1
④石本	2	0	0
⑧岩下	2	0	0
		19	3 1

長崎日野、1点を守る

【評】長崎日野が二回に挙げた1点を守り切った。この回、二死から古里が四球で出塁。岡村の初球に二盗。捕手からの送球が逸れる間に三進し、岡村が中前へ弾き返して1点を先制。その得点を古里の力投で逃げ切った。

御厨は再三、走者を出しながらも要所を締められて得点に結びつかなかった。春藤が好投していただけに惜まれる。

【東芝】打安点

⑦藤尾	4	2	1
④林	4	2	0
⑤田島	4	2	1
③矢ヶ部	3	2	0
①犬田	4	2	1
⑥前塚	4	1	1
⑨高島	2	0	0
9鍛冶	1	0	0
H9池田	1	0	0
②平瀬	4	1	0
⑧池田正	2	1	0
		33	13 4

東芝13安打

【一回戦】=大橋：第2試合=

振球犠盗失残併

東芝セラミックス	101 100 1	4	2	2	1	3	0	11	1
電電平戸	000 000 1	1	7	3	0	1	0	4	0

【二】前田

【評】東芝が13本の長短打で4点を奪い、守っては最終回に一死満塁のピンチに死球による押し出しの1点を与えただけで切り抜けた。

東芝は初回、先頭の藤尾から5番の前田までの連打で1点を先制し、その後も着実に加点した。電電平戸は最終回に四球と安打2本で一死満塁とし、代打の柴山が死球で押し出し、さらに好機が続いたが後続が併殺打に倒れ万事休した。

【平戸】打安点

⑧小笠原	3	1	0
⑤小田	2	0	0
①吉永	2	0	0
②ト部	3	0	0
⑦米原	3	1	0
③高木	3	1	0
④松尾	2	0	0
H柴山	0	0	1
R松永	0	0	0
⑨大山	3	0	0
⑥磯木	2	0	0
		23	3 1

【島原】打安点

④深浦	3	1	0
①林田	2	1	1
⑦鍬取	4	1	0
②成瀬	4	1	1
⑨北田	4	1	0
⑥谷口	2	1	0
③吉田	3	0	0
8島田	1	0	0
H8岡本	2	0	1
⑤平野	3	0	0
		28	6 3

島原、最終回に一挙3点

【一回戦】=大橋：第3試合=

振球犠盗失残併

島原市役所	000 100 3	4	4	4	0	3	2	7	0
電源開発	100 000 0	1	12	2	1	3	1	3	1

【二】梅野、林田、成瀬

【評】1-1の同点で迎えた最終回の島原は二死後に深浦が敵失で生きた後に二盗。林田の左中間二塁打で深浦が還り、鍬取の一打は再び敵失を誘って林田が生還。成瀬も左越え二塁打を放ってこの回に3点を奪った。

電源開発は初回に先頭の村田が安打し二盗。梅野の遊ゴロで三進し四球で出た中渡瀬との間で重盗を決めて先制したが…。

【電源】打安点

⑥村田	3	1	0
⑤亀井	3	0	0
⑨梅野	3	1	0
①中渡瀬	1	0	0
⑦崎尾	2	0	0
⑧梅田	3	0	0
③広兼	3	0	0
②柴田	3	0	0
④杉下	2	0	0
		23	2 0

上五島ク、サヨナラ 轟ク 惜しい5回の先制機

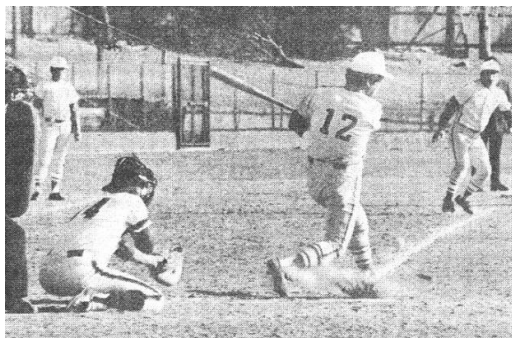
【一回戦】=大橋：第4試合= 振球犠盗失残併

轟 クラブ	000 001 0	1	2	2	1	0	0	5	0
上五島クラブ	000 010 1x	2	6	3	3	2	0	4	1

【二】安田茂、道副

【評】第3試合同様1-1の最終回裏の上五島は先頭の安田茂が左中間二塁打。続く安田誠も中前打。鉄川が四球で満塁。一死後に吉村の一打は投前に転がる幸運な安打となり三塁から安田茂が本塁を突いてサヨナラ勝ちをした(写真右)。

轟は五回に先頭の浜崎が中前打で出塁したが田中の三飛でリードが大きかった浜崎が三塁からの好送球に刺されて先制機を逸した。



最終回の7回裏、上五島一死満塁の好機に吉村の一打は投前へ転がる幸運な内野安打で三塁から安田茂が還ってサヨナラ勝ち。

【轟】打安点

② 中山	3	0	0
⑤ 山口	3	1	0
⑥ 道副	2	1	1
⑧ 東川	3	0	0
⑨ 川田	3	0	0
⑦ 浜崎	2	1	0
③ 田中	2	0	0
① 久松	3	2	0
④ 峰	3	0	0

24 5 1

【上五島】打安点

④ 前田	3	0	0
⑥ 梶田	3	0	0
⑦ 安田	3	1	0
⑤ 安田	3	1	0
⑧ 鉄川	1	0	0
② 西下	2	0	0
③ 吉村	3	2	1
① 原	0	0	0
⑨ 西下	0	0	0
H9 前田	1	0	0

19 4 1

【親和】打安点

② 黒石	3	0	0
⑧ 古川	3	1	0
⑦ 竹山	3	1	0
⑤ 小森	3	1	0
⑨ 一ノ	2	0	0
9 宮添	1	1	1
③ 坂井	3	0	0
④ 久住	1	0	0
H 香田	1	0	0
4 岩崎	0	0	0
① 宮本	2	0	0
⑥ 石田	2	0	0

親銀辛勝
見ごたえ、両投手の力投

【一回戦】=大橋：第5試合= 振球犠盗失残併

親和銀行	000 000 1	1	0	1	0	4	1	3	0
長崎無線電報局	000 000 0	0	3	0	0	1	0	3	0

【二】宮添

【評】親銀・宮本、長崎無線・大石両投手の投げ合いで両軍とも六回を終って放った安打はわずか2本ずつ。1点を争う好ゲームとなったが決勝点は親銀へ入った。

最終回の親銀は小森が三遊間安打。二盗の後に宮添が右前に適時打を放ち小森が一気に本塁へ駆け込んだ。

長崎無線局も健闘したが2安打では成すすべもなかった。

【無線】打安点

⑧ 田村	3	0	0
⑥ 富高	3	0	0
⑤ 四方	3	0	0
⑦ 岩井	3	0	0
③ 池田	3	0	0
② 折井	2	0	0
H 酒井	1	0	0
④ 大塚	2	0	0
① 大石	2	1	0
⑨ 西村	2	1	0

24 2 0

【マックス】打安点

⑤ 中庭	3	0	0
⑨ 神宮	3	0	0
⑥ 八坂	3	0	0
③ 森崎	3	1	0
⑧ 栗山	3	1	0
② 永留	3	1	0
④ 毛越	2	0	0
⑦ 岸原	2	0	0
① 中村	2	0	0

富江
マックス逃げ切る
守備陣の乱れに泣く

【一回戦】=長工G：第1試合= 振球犠盗失残併

マックス	000 000 04	4	7	0	0	0	2	3	0
富江クラブ	000 000 03	3	3	5	2	2	0	7	0

【二】永留

(延長8回は一死満塁制)

【評】富江クは惜しい試合を落とした。マックス中村投手は被安打こそ3本だがコントロールが悪く毎回走者を背にする苦しい投球。しかし味方の好守に助けられ試合は延長戦へ。

一死満塁制の八回、マックスは相手守備陣の乱れに乗じ4点を奪い、富江クの反撃を3点に抑えて逃げ切った。富江ク・松倉投手の小気味よい投球が光った。

【富江】打安点

⑧ 田中	4	1	0
④ 福山	3	0	0
⑨ 田橋	3	0	0
② 田橋	2	0	0
① 松倉	2	0	0
⑥ 松下	2	1	0
⑦ 田中	2	0	0
③ 穎原	2	1	0
⑤ 片町	2	0	0

22 3 0

【吉井】打安点

⑤ 平川	3	0	0
③ 堤	1	0	0
H1 中島	1	1	1
⑦3 満井	2	0	0
⑥ 坂本	3	0	0
①7 山南	2	0	0
⑧ 江口	2	2	2
④ 三木	3	0	0
② 野元	3	1	0
⑨ 樋口	1	1	0
H 立石	1	0	0

吉井の先手及ばず 中村 大技小技で突き放す

【一回戦】=長工G：第2試合= 振球犠盗失残併

吉井クラブ	200 000 1	3	2	6	1	2	1	6	0
中村クラブ	003 400 X	7	1	5	2	0	0	3	1

【二】江口、野元、黒岩、工藤

【評】両チームとも投手の調子が今一步で、四死球絡みの大味な試合となった。先手を取ったのは吉井クラブ。初回二死二三塁から江口の2点適時打でまず先行。しかし中村クラブも四回に四球から好機をつかみ野選と2本の安打で一挙3点を挙げ逆転。五回にも三つの四死球に敵失、スクイズ、長打をかみ合わせた攻撃でダメ押しの4点を挙げた。

【中村】打安点

⑧ 今道	3	0	1
⑨ 黒岩	3	1	2
⑥ 佐藤	2	1	1
⑤ 林	3	1	2
① 疋田	2	0	0
③ 鈴木	1	0	0
3 清水	1	0	0
⑦ 中村	3	0	0
② 松尾	1	0	0
2 工藤	1	1	0
⑥ 川崎	1	0	1

21 4 7

内田油圧が逆転 パワーズ好機に打線沈黙

【宍 岐】 打安点

⑥久田	4	1	0
⑧西	3	1	1
④川上	2	0	0
①真鍋	2	0	0
②加藤	3	0	0
⑦伊佐藤	3	0	0
⑤吉木	3	2	0
③森山	3	0	0
⑨下条	3	0	0
26 4 1			

【一回戦】 = 西浦上中G = 振球犠盗失残併

宍岐パワーズ	001 000 0	1	4	2	0	0	5	6	0
内田油圧クラブ	001 020 X	3	2	2	1	1	2	4	0

【二】西

【評】 1-1で迎えた五回の攻防が明暗を分けた。パワーズは一死一二塁の好機に期待の1、2番が凡退。その裏の内田油圧クは代打の原田が敵失で出塁。一死後に浜口の裕ゴロが二塁への悪送となり原田が一塁生還し浜口も三塁へ進んだ。続く引地のスクイズは投前の小フライ。併殺を焦った投手の三塁悪送で労せず2点を挙げて試合を決めた。

【内田】 打安点

⑧池田	3	0	0
⑥浜口	2	1	1
②引地	3	0	0
③浜崎	3	1	0
⑨山崎	3	0	0
1尾田	0	0	0
①9井手	3	0	0
⑤北村	3	0	0
④徳永	0	0	0
H4酒田	1	0	0
4大石	0	0	0
⑦古川	0	0	0
H7原田	1	0	0
22 2 1			

長崎県軟式野球連盟創立35周年記念の第35回県軟式野球選手権大会第二日は、11月2日に大橋球場で二回

戦の4試合を行った。
(昭和55年11月3日付けの長崎新聞より抜粋)

日野自動車が快勝 チャンスで着実に得点

【日野】 打安点

⑥武次	3	1	1
⑨樫本	3	1	0
③中村	3	1	0
⑦西山	1	0	0
H7川良	1	0	0
②岡田	2	0	0
H2木村	1	0	0
⑤鶴嶋	3	0	0
④筒井	3	1	0
①井手	3	1	1
⑧岩下	2	1	0
25 6 2			

【二回戦】 = 第1試合 = 振球犠盗失残併

長崎日野自動車	000 020 0	2	0	1	2	3	2	5	1
東芝セラミックス	000 000 0	0	2	1	1	1	1	6	0

【二】筒井

【評】 前半を鍛冶の好投に抑えられていた長崎日野は五回に先頭の筒井が右中間二塁打で出塁し、続く井手が中前にうまく弾き返して1点。井手も送球の間に二進。ここで岩下の送りバントが投手の一塁悪送となり無死二三塁。武次の犠飛であっさり2点目と前年度優勝の貫禄を示した。東芝も5安打を放ち食い下がったが井手の丹念な投球に要所を締められ惜敗したが、随所に好プレーを見せ健闘が光った。

【東芝】 打安点

⑦藤尾	3	0	0
⑮15田島	3	1	0
④矢ヶ部	3	1	0
③51前田	3	1	0
⑥犬塚	2	0	0
①鍛冶	1	0	0
⑨中島	1	1	0
H山口	1	0	0
②平瀬	2	1	0
H高島	1	0	0
⑧池田正	2	0	0
22 5 0			

【上五島】 打安点

④前田定	2	1	0
⑥榊田	3	2	1
⑤安田茂	4	1	0
⑦安田誠	2	0	0
⑧鉄川	2	0	0
②西下康	2	0	0
③吉村	2	1	0
①前田孝	3	0	0
⑨西下定	3	0	0
23 5 1			

島原
毎
回
走
者
生
か
せ
ず
上
五
島
ク
逃
げ
切
る

【二回戦】 = 第2試合 = 振球犠盗失残併

上五島クラブ	010 000 1	2	4	4	3	0	2	7	0
島原市役所	000 000 0	0	3	4	2	0	2	7	1

【二】榊田

【評】 上五島クラブは二回一死後、四球の鉄川を西下康が手堅く送り吉村四球の一死で前田孝は平凡な二ゴロ。これをお手玉の間に二塁から鉄川が好走良く本塁に駆け込み先取点。七回は四球を足場に榊田が中越え二塁打しダメ押しの2点目を挙げ逃げ切った。島原は毎回のように入走者を出しながらも決定打が出ずに惜敗。

【島原】 打安点

④深浦	3	0	0
①林取	3	0	0
⑦鍛冶	3	1	0
②成瀬	2	0	0
⑧北田	3	0	0
⑥谷口	3	0	0
⑨岡本	1	0	0
⑤平野	1	0	0
H松本	1	1	0
③吉田	3	0	0
23 2 0			

親銀4回に逆転 マックス先制点守れず

【親和】 打安点

④久住呂	3	0	0
②黒石	3	1	0
⑦竹山	3	1	0
⑤小森	2	0	0
③辻	2	0	0
⑧宮添	3	0	1
⑨村竹	1	0	0
H9古川	2	1	1
①高藤	3	2	0
⑥石田	3	1	0
25 6 2			

【二回戦】 = 第3試合 = 振球犠盗失残併

親和銀行	000 200 0	2	1	3	0	2	2	5	1
マックス	100 000 0	1	4	1	0	1	1	4	0

【二】黒石、中村

【評】 1点差を追う親銀は四回に二つの四死球とパスボールで一死二三塁の絶好機に代打・古川の適時打などで逆転した。先手を取ったのはマックス。初回に先頭の中庭が三遊間安打し二盗と投ゴロで三進。続く八坂の高いバウンドの三塁ゴロで生還して先制したが、三回以降は高藤の前につけ込むスキを見出せず、コーナーワーク巧みな投球に抑えられた。

【マックス】 打安点

①中庭	3	1	0
⑨神宮	3	0	0
⑥八坂	3	0	1
③森崎	3	0	0
②永留	2	0	0
⑧栗山	3	1	0
④毛越	3	0	0
⑤岸原	2	0	0
H豊田	1	0	0
⑦中村	2	1	0
25 3 1			

内田油圧、乱れつく 中村ク 継投策が裏目に

【二回戦】=第4試合= 振球犠盗失残併

中村クラブ	100 000 0	1	3	1	1	0	1	3	0
内田油圧クラブ	000 030 X	3	2	5	0	1	1	5	0

【評】内田油圧クラブが終盤に相手投手陣の乱調から勞せずして3点を奪い初出場ながら準決勝進出を果たした。五回の内田油圧は制球に苦しむ疋田、黒岩両投手から連続四球で無死一二塁。ここで中村クは三番手の清水を送り必死の防戦。しかし二つの四死球とボークや牽制悪送球などで3点を献上。継投策が裏目に出る結果となった。

中村クラブは初回到安打の今道がパスボールや相手のエラーで生還し幸先の良い1点を挙げたが中盤以降は内田の二番手、井手の左腕に抑え込まれた。



5回裏の内田油圧クラブは一死二三塁から相手投手の二塁牽制悪送球で、三塁走者に続き二塁走者の原田も生還し逆転

【中村】打安点

⑧ 今道	3	2	0
⑨13 黒岩	3	0	1
④ 佐藤	2	0	0
② 角西	3	0	0
③19 清水	2	0	0
H 山口	1	0	0
⑤ 工藤	1	0	0
H 一山	1	0	0
①91 疋田	2	0	0
H 北野	1	0	0
⑦ 中村	2	0	0
⑥ 川崎	2	0	0
23		2	1

【内田】打安点

⑦ 古川	2	0	0
H7 山崎	1	0	0
⑥ 浜口	2	0	0
② 引地	3	1	1
③ 浜崎	2	0	0
⑧ 池田	3	1	0
⑤ 北村	2	0	0
⑨ 原村	2	0	0
④ 大石	1	1	0
H4 徳永	2	0	0
① 尾田	0	0	0
1 井手	1	0	0
21		3	1

大会最終日の11月3日は祝日で朝から秋晴れのもと準決勝戦2試合と決勝戦の3試合が行われ、スタンド

には熱心な野球ファンが詰めかけた。
(昭和55年11月4日付けの長崎新聞より抜粋)

西山が3安打完封 上五島、まずい攻めで自滅

【日野】打安点

⑥ 武次	3	0	0
⑦ 樫本	3	2	0
② 木村	3	0	0
③ 井手	3	0	0
⑨ 有川	3	0	0
① 西山	3	1	0
④ 筒井	2	1	0
⑤ 鶴嶋	2	1	1
⑧ 岩下	2	0	0
24		5	1

【準決勝】=第1試合= 振球犠盗失残併

長崎日野自動車	000 010 0	1	0	1	0	0	1	1	0
上五島クラブ	000 000 0	0	7	1	0	0	0	2	2

【評】長崎日野が五回に挙げたトラの子の1点を西山が散發3安打に抑える好投で守り切った。五回の日野は二死後に7番筒井が四球。鶴嶋が中堅手頭上を越える二塁打を放ち筒井が一気に本塁まで達し先制のベースを踏んだ。日野は三回と四回にも先頭が安打で出たが併殺などの拙攻で得点できなかった。

一方の上五島は四回に梶田が右前打し二塁を欲張って返球に倒れ、五回には四球の鉄川が投手牽制球に刺されるなど無死の走者をまずい攻めで生かすことができず自滅した。原が好投しただけに惜まれる。

【二】安田茂 鶴嶋

【上五島】打安点

④ 前田定	3	0	0
⑥ 梶田	3	1	0
⑤ 安田茂	3	1	0
⑦ 安田誠	2	0	0
H 原田	1	0	0
⑧ 鉄川	2	0	0
③ 吉村	2	0	0
② 西下康	2	0	0
① 原	2	1	0
⑨ 西下定	2	0	0
22		3	0

親和銀行、内田油圧の反撃かわす

【親和】打安点

④ 久住呂	4	3	0
② 黒石	4	0	0
⑦ 竹山	3	0	0
⑤ 小森	3	1	0
③ 香田	2	0	0
R 古川	0	0	0
3 坂井	1	0	0
⑧ 宮添	3	1	0
⑨ 岩佐	2	0	0
① 高藤	2	0	0
⑥ 石田	3	0	0
27		5	0

【準決勝】=第2試合= 振球犠盗失残併

親和銀行	000 001 0	1	1	2	0	0	0	7	0
内田油圧クラブ	000 000 0	0	1	1	0	0	3	4	0

【評】1点を争う好ゲームを展開したが、親銀は六回に安打と敵失などで1点を挙げ、内田油圧の反撃をかわした。

六回の親銀は三番から始まる好打順。竹山は三ゴロで一死となったが小森が中前打。坂井の投ゴロが野選となって一死一二塁。宮添の一塁ゴロで二死となったが、ここで一塁手が二塁へ悪送球。この間に小森が三塁をまわって生還した。親銀は一回無死二塁、二回にも二死満塁の先制機があったが適時打が出ずに無得点で最後まで苦戦した。

これに対し内田油圧クラブは四回の二死一二塁を除くとチャンスらしいチャンスもないままに、昨年準優勝の親和銀行に惜敗した。

【二】久住呂2

【内田】打安点

⑨ 山崎	2	0	0
9 古川	1	0	0
⑦ 原田	2	1	0
② 引地	3	0	0
③ 浜崎	3	1	0
⑧ 池田	3	0	0
① 井手	3	0	0
④ 徳永	0	0	0
6 浜口	2	0	0
H 石本	1	0	0
⑤ 北村	2	1	0
⑥4 大石	2	0	0
24		3	0

日野打線 火を噴く 2投手に 11安打浴びせる

親銀代打攻勢遅し 終回敵失誘いやっと1点

【決勝戦】

振球犠盗失残併

親和銀行	000 000 001	1	4	1	0	0	1	2	1
長崎日野自動車	000 021 00X	3	3	0	0	2	1	7	0

【三】井手

中村 郁もあわやパーフェクト

【評】前回と同じ対戦となったが、長崎日野が親銀の2投手に11本の長短打を浴びせて3点を奪い、守っては中村郁が九回1点を取られ完封を逃しはしたものの八回まで親和打線を無安打無四球に抑える好投で2連勝の原動力となった。

日野は五回、井手が中前打。岩下の投ゴロで二封後に岩下二盗に成功。武次は二飛で二死となり樫本が三塁前内野安打。中村が右前適時打しまず1点。西山も左前へ弾き返して樫本生還。六回には一死から筒井が中前に。井手が右中間三塁打してダメを押した(写真右)。

一方、中村郁の好投に八回までパーフェクトに抑えられていた親銀は最終回到代打攻勢で反撃に出、代打の辻が中前にきれいに打ち返して初安打。一死後に代打香田の4球目は暴投で辻が三進。香田四球後に久住呂の投ゴロが投手の失策を誘って1点を返したが反撃もここまで。



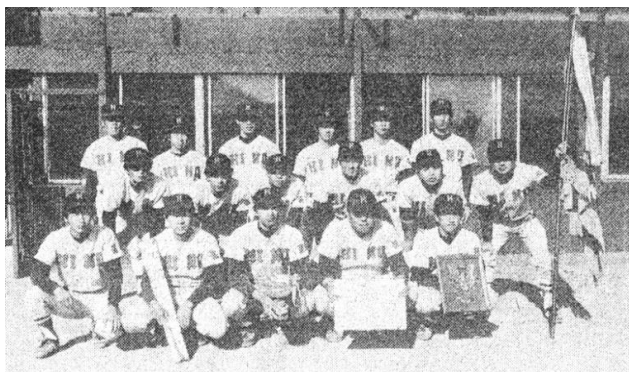
6回裏の長崎日野は一死一塁で井手の右中間三塁打で筒井が踊りあがって生還、ダメ押し3点目を挙げる。

【親和】打安点

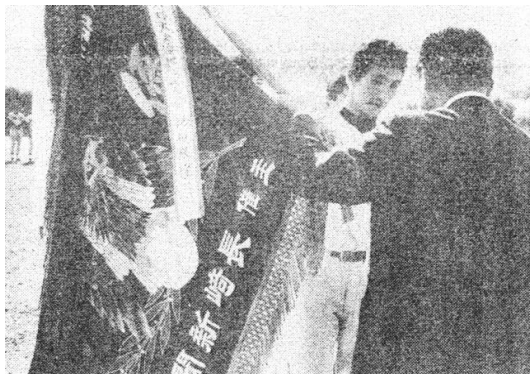
④久住呂	4 0 0
⑧古川	4 0 0
⑦竹山	4 0 0
⑤小森	3 0 0
③坂井	2 0 0
H3岩佐	1 0 0
⑨宮添	3 0 0
②黒石	2 0 0
H 辻	1 1 0
①宮本	1 0 0
H 一の間	1 0 0
1高藤	1 0 0
⑥石田	1 0 0
H 岩崎	1 0 0
R 村竹	0 0 0
29 1 0	

【日野】打安点

⑥武次	4 1 0
⑨樫本	4 2 0
①中村郁	4 1 1
⑦西山	4 1 1
⑤鶴嶋	4 1 0
②岡田	4 1 0
④筒井	4 1 0
③井手	3 3 1
R3木村	0 0 0
⑧岩下	3 0 0
34 11 3	



昨年到现在V2を果たした長崎日野自動車の選手たち



V2を果たした長崎日野の中村郁郎主将が長崎新聞社の藤原常務から優勝旗を受ける。

優秀選手となった中村郁郎投手の話 パーフェクトは知っていた。最終回一人取ればいけるのではと思ったが低めに投げたカーブが高めに行き打たれた。二回戦と苦戦したが、きょうは全員が今大会で一番気合が入っていたし、いい試合ができた。

天皇賜杯第35回全日本軟式野球大会

S55. 8. 19～・秋田県秋田市ほか 52チーム参加

- 【一】 三菱重工長崎 4-1 十和田信用金庫(青森)
- 【二】 " 0-1 千葉相互銀行(千葉)

第35回栃木国体軟式野球競技

10/13～・鹿沼市、宇都宮市ほか 28チーム参加

- 【一】 長崎日野自動車 2-3 住友金属鹿島(茨城)

第2回西日本軟式野球大会〈1部〉

5/25～・徳島県 25チーム参加

- 【一】 大村市役所 1-6 鳴門市役所(徳島)

第2回西日本軟式野球大会〈2部〉

6/8～・福岡市 25チーム参加

- 【二】 島原市役所 8-7 姫島クラブ(大分)
- 【準々】 " 4-1 ファイターズ(鳥取)
- 【準】 " 1-3 田伎ファイターズ(島根)

高松宮賜杯第24回全日本大会(滋賀県)【16チーム×2】に県勢は不出場